



WinActor Manager on Cloud Version 4.1

MCP サーバー ユーザーマニュアル

NTT アドバンステクノロジー株式会社

商標について

本書において以下に記載された名称、およびその他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では™、®、©マークは省略しています。

- Microsoft、Windows^{※1}、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※1 Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

- その他の記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本書について

WinActor Manager on Cloud（以下、WinActor Manager）を MCP サーバーとして動作させるための手順を記載したマニュアルです。

本書は、WinActor Manager および MCP に関する知識があり、AI エージェントを設定して WinActor Manager の MCP サーバー機能をご利用いただくユーザを対象としています。

■ 本書に関する注意

- 本書および提供するソフトウェア類に付された著作権表示の変更、削除をすることはできません。
本書の著作権は NTT アドバンステクノロジー株式会社に帰属します。
- 本書では、Windows の操作方法や機能を理解されていることを前提として説明しています。本書に記載されていないことについては、Microsoft が提供しているドキュメントなどをご覧ください。

■ マニュアルの構成

WinActor Manager のマニュアル全体の構成については、以下を参照してください。

WinActor Manager on Cloud スタートアップマニュアル	WinActor を WinActor Manager に接続するための準備方法を記載しているマニュアルです。
WinActor Manager on Cloud オペレーションマニュアル	WinActor Manager の画面構成と基本的な操作方法について記述しているマニュアルです。
WinActor Manager on Cloud シンプルモードユーザーマニュアル	シンプルモードユーザーが WinActor Manager の画面を操作するためのマニュアルです。
WinActor Manager on Cloud アンサンブルエディタユーザーマニュアル	WinActor Manager の一機能であるアンサンブルエディタをより便利に使用するために、目的に応じた使い方を記載しているマニュアルです。
WinActor Manager on Cloud チュートリアルブック	WinActor Manager をより便利に使用するために、目的に応じた使い方を記載しているチュートリアルです。
WinActor Manager on Cloud WinActor 接続台数制限ユーザーマニュアル	WinActor 接続台数制限版 WinActorManager の機能について記載しているマニュアルです。
WinActor Manager on Cloud MCP サーバーユーザーマニュアル	WinActor Manager の一機能である MCP サーバーの操作方法について記載しているマニュアルです（本書）。

■ 本書のアイコン

本書で使用しているアイコンおよび記号の意味は、以下のとおりです。

	特に重要な情報
	本文、画面説明、操作などへの補足的な情報
	本書の他のページや他のマニュアルなどへの参照情報

WinActor Manager の利用環境

WinActor Manager を利用するための前提条件を以下に示します。

- WinActor と WinActor Manager の間の HTTPS 通信が可能であること。
- WinActor Manager にログインするためのブラウザとして、Google Chrome を使用すること。

WinActor Manager の使用に関する注意

WinActor Manager を使用する場合、以下の点にご注意ください。

- WinActor Manager は、WinActor で使用するシナリオやデータファイル、WinActor がタスクを実行した結果ファイルを取り扱います。このため、シナリオやデータファイルおよび結果ファイルには、個人情報など含まれている可能性があります。取り扱いには十分ご注意ください。
- WinActor Manager は、端末にインストールされた WinActor を自動的に実行する機能を有しています。他者への迷惑行為を自動的に実行するなど、公序良俗に反する行為には使用しないでください。

目次

商標について	i
本書について	ii
WinActor Manager の利用環境	iv
WinActor Manager の使用に関する注意	iv
目次	v
1. MCP サーバーとは	1
1.1 WinActor Manager の MCP サーバーについて	1
2. 事前準備	2
2.1 シナリオファイル概要	2
2.2 シナリオを登録する	3
3. MCP ツール登録	8
3.1 MCP ツールを登録する	8
4. MCP ツール実行	14
4.1 API キーを発行し、AI エージェントに設定する	14
4.2 MCP ツールを実行する	17
5. MCP サーバー利用時の注意点	22
5.1 所属について	22
5.2 入出力パラメータについて	22
5.3 ツールタイムアウトについて	22
5.4 レスポンス返却時のタイムアウトについて	22
5.5 WinActor について	24

1. MCP サーバーとは

Model Context Protocol (MCP) とは AI エージェントと外部ツールやデータを安全に接続するための規格です。AI エージェント側が MCP クライアント、外部ツールやデータを提供
する側が MCP サーバーとして動作することで、AI エージェントは希望する外部ツールを
実行し、その結果を受け取ることができるようになります。

WinActor Manager は MCP サーバーとして WinActor Manager に登録されているシナリオ
ファイルの実行機能を提供します。これにより、AI エージェントと連携しながら WinActor
を動作させることができます。

1.1 WinActor Manager の MCP サーバーについて

一般的に MCP サーバーは AI エージェントにいくつかの機能を提供することができます。
WinActor Manager の MCP サーバーが提供することができる機能は以下の通りです。

表 1.1-1 主要な MCP サーバー機能の提供可否

機能	提供可否	説明
Tools	提供しています。	WinActor Manager に登録されているシナリオ をツールとして提供します。ただし、利用 可能なツールリストが変更されても通知は 発行しません。
Resources	提供していません。	リソース機能は提供していません。そのた め、WinActor Manager 上に存在するファイ ルなどを AI エージェントが直接取得するこ とはできません。
Prompts	提供していません。	プロンプト機能は提供していません。

WinActor Manager が対応する MCP のバージョンは以下の通りです。

表 1.1-2 対応 MCP バージョン

種別	値	備考
プロトコルバージョン	2025-06-18	

2. 事前準備

この章では、事前準備としてシナリオ登録について説明します。シナリオについて登録済みであれば次の章へ進むことは可能ですが、シナリオの所属は「共有」所属としてください。

また、WinActor の登録、および、FL 版 WinActor が使用するライセンスグループの設定は別途実施し、管理実行モードで起動した状態としてください。WinActor の所属についても「共有」所属としてください。

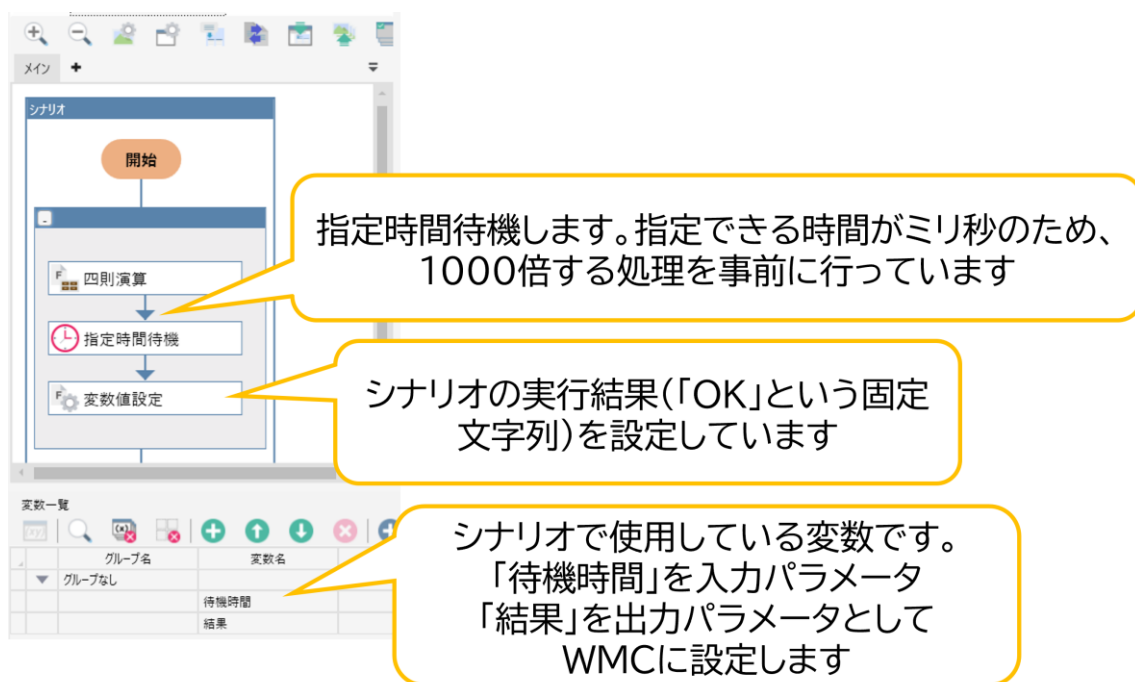
2.1 シナリオファイル概要

WinActor で実行するシナリオファイルを準備します。本書では指定した時間、待機するシナリオファイルを用いて説明します。

WinActor Manager 経由でのシナリオ実行では、シナリオファイル内で使用する変数を指定することで、シナリオ実行時に値を設定し、実行結果を WinActor Manager に返却することができます。これにより、MCP ツールとして実行する際に例えば「都市名」を受け取って「天気予報」を返却することなどが可能になります。

WinActor Manager が提供する MCP サーバーでシナリオを実行する際に、AI エージェントから受け取ることができる情報は「文字列」のみとなります。「ファイル」は使用できませんので「ファイル」を入出力に用いるシナリオファイルは使用できない点にご注意ください。

図 2.1-1 本書で使用するシナリオファイル



2.2 シナリオを登録する

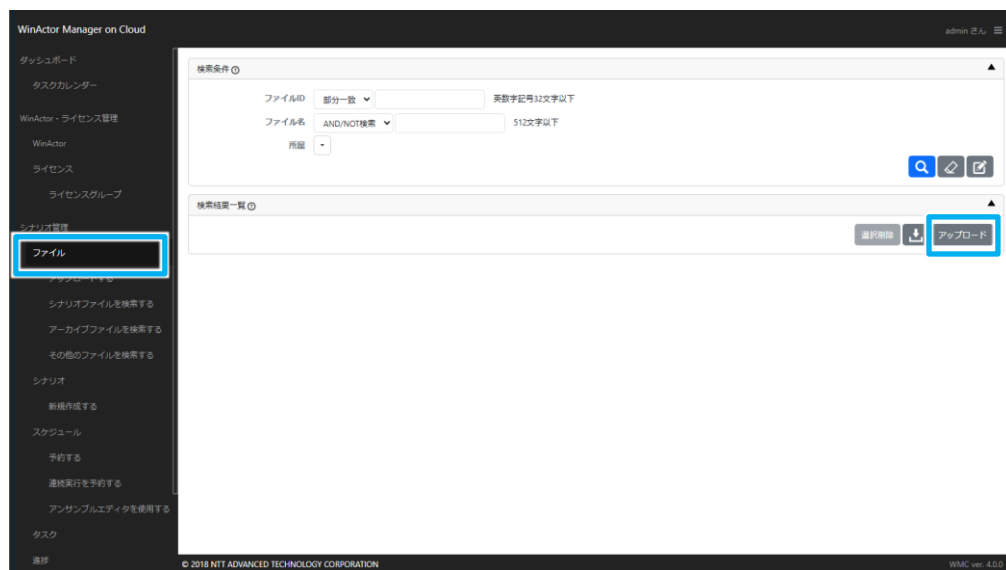
WinActor Manager へシナリオファイルを登録し、シナリオ情報を作成する手順について説明します。



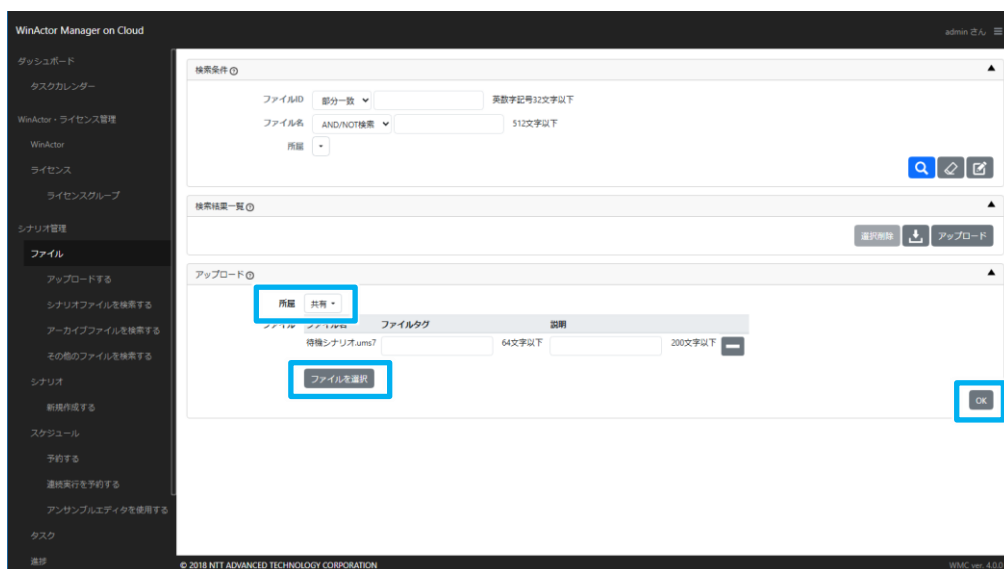
「シナリオ名」に「MCP_」をつける、「詳細設定」の「メモ」に「MCP」と記録するなどを行うと、MCP で使用するシナリオであることがわかりやすくなります。

Steps

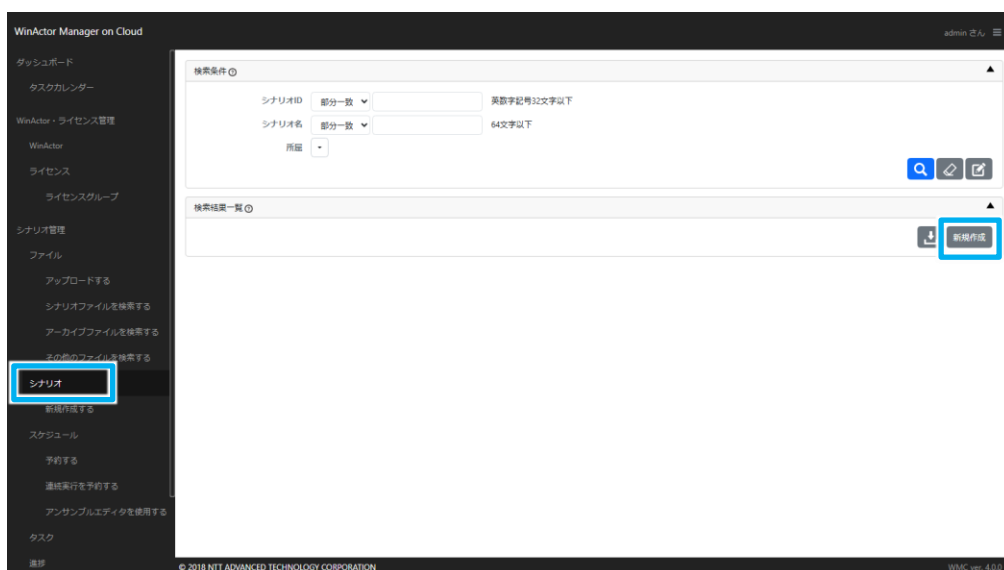
1. ファイル画面を表示し、[アップロード] ボタンをクリックします。



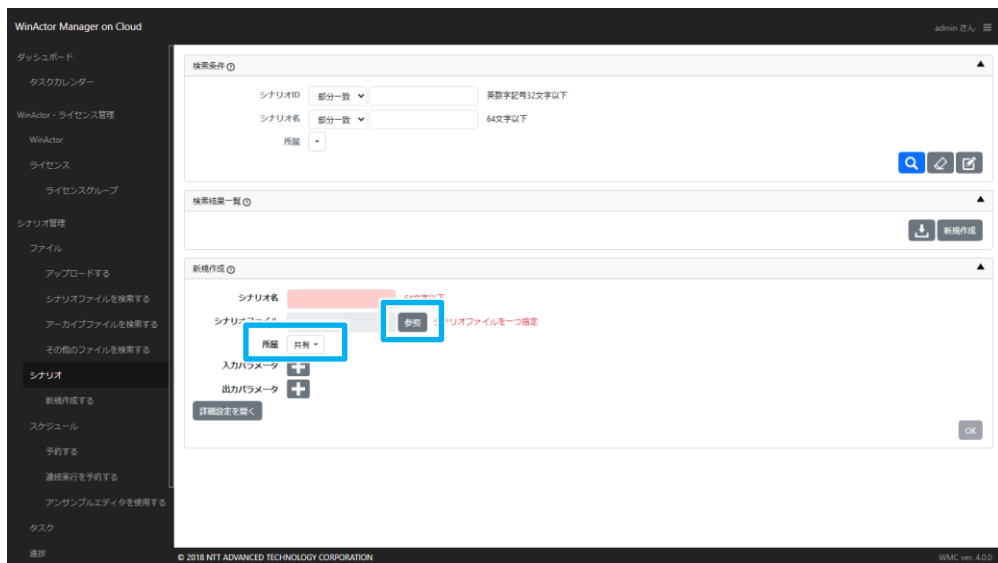
2. 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、用意したシナリオファイルを選択します。「所属」は必ず「共有」のままとしてください。OK ボタンをクリックしてシナリオファイルを登録します。



3. シナリオ画面を表示し、「新規作成」ボタンをクリックします。



4. 「参照」ボタンをクリックしてシナリオファイルを選択します。「所属」は「共有」のままとします。



5. シナリオファイル選択後、入力パラメータの「+」ボタンをクリックします。



6. 入力パラメータを設定します。「名前」はシナリオファイルで使用している変数名を指定します（ここでは「待機時間」）。「型」は「文字列」を選んでください。入力が終わったら [OK] ボタンをクリックします。入力パラメータが複数ある場合はこの操作を繰り返します。



7. 続いて出力パラメータを設定します。出力パラメータの [+] ボタンをクリックします。



8. 出力パラメータを設定します。「名前」はシナリオファイルで使用している変数名を指定します（ここでは「結果」）。「型」は「文字列」を選んでください。入力が終わったら [OK] ボタンをクリックします。出力パラメータが複数ある場合はこの操作を繰り返します。

9. 設定が終わったら [OK] ボタンをクリックします。シナリオ登録は以上となります。

3. MCP ツール登録

この章では、WinActor で実行するシナリオを MCP ツールとして登録するまでを説明します。シナリオを MCP ツールとして登録することで AI エージェント側で実行可能として認識され、AI エージェントから呼び出されるようになります。



この章で説明する画面の表示内容を確認するためには、管理者権限を持つユーザでログインをする必要があります。

3.1 MCP ツールを登録する

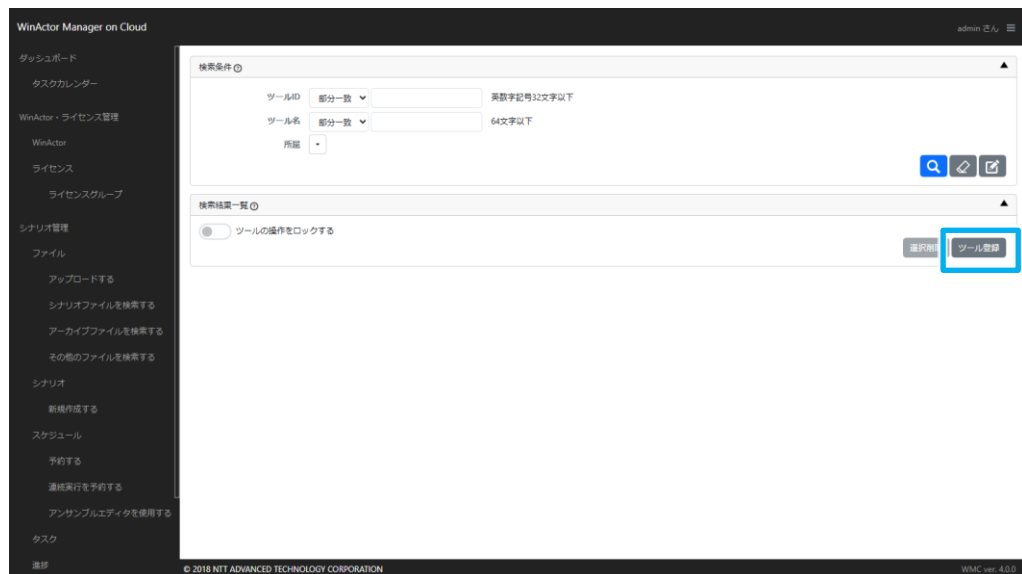
登録したシナリオを MCP のツールとして実行するための手順について説明します。

Steps

1. 右上の 3 本線ボタンをクリックすると右側にメニューが表示されます。その中の「MCP ツール」をクリックします。



2. MCP ツール画面が表示されたら、[ツール登録] ボタンをクリックします。



3. [参照] ボタンをクリックして、先程登録したシナリオを選択します。



4. シナリオを選択するとシナリオに紐づく入力パラメータ、出力パラメータが表示されます。

5. ツール名、ツール説明を設定します。AI エージェントがツールを選択する際の情報となりますので注意して設定してください。ツールタイムアウトは長時間シナリオ実行している場合に処理を終了するためのタイムアウト値です。



AI エージェントによっては、ツール名に全角文字が含まれていると正しく動かないことがあります。

6. MCP ツール上の入力パラメータ、出力パラメータの名前を設定します。初期値はシナリオに設定した名前が入っていますが、半角英数記号ではない場合は名前を変更してください。

WinActor Manager on Cloud

検索結果一覧 (0)

ツールの操作をロックする

選択解除 ツール登録

登録 (0)

シナリオ名 待機シナリオ 参照 シナリオを選択してください

ツール名 待機シナリオ 64文字以下

AIエージェントによっては、ツール名に全角文字が含まれていると正しく動かないことがあります。

ツール説明 指定した時間、待機します 200文字以下

ツールタイムアウト 600 数値60秒以上 (1分) 1800秒以下 (30分) (省略時は600秒)

入力パラメータ

名前(シナリオ)	名前(ツール)	型	必須	省略値	説明(ツール)
待機時間	wait_time	文字列	必須	10000文字以下	200文字以下

名前(ツール)には、全角文字は入力できません。

出力パラメータ

名前(シナリオ)	名前(ツール)	型	説明(ツール)
結果	result	文字列	200文字以下

名前(ツール)には、全角文字は入力できません。

OK

© 2018 NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION WAMC ver. 4.0.0

7. 設定が終わったら [OK] ボタンをクリックして MCP ツールを登録します。

WinActor Manager on Cloud

検索結果一覧 (0)

ツールの操作をロックする

選択解除 ツール登録

登録 (0)

シナリオ名 待機シナリオ 参照 シナリオを選択してください

ツール名 待機シナリオ 64文字以下

AIエージェントによっては、ツール名に全角文字が含まれていると正しく動かないことがあります。

ツール説明 指定した時間、待機します 200文字以下

ツールタイムアウト 600 数値60秒以上 (1分) 1800秒以下 (30分) (省略時は600秒)

入力パラメータ

名前(シナリオ)	名前(ツール)	型	必須	省略値	説明(ツール)
待機時間	wait_time	文字列	必須	10000文字以下	200文字以下

名前(ツール)には、全角文字は入力できません。

出力パラメータ

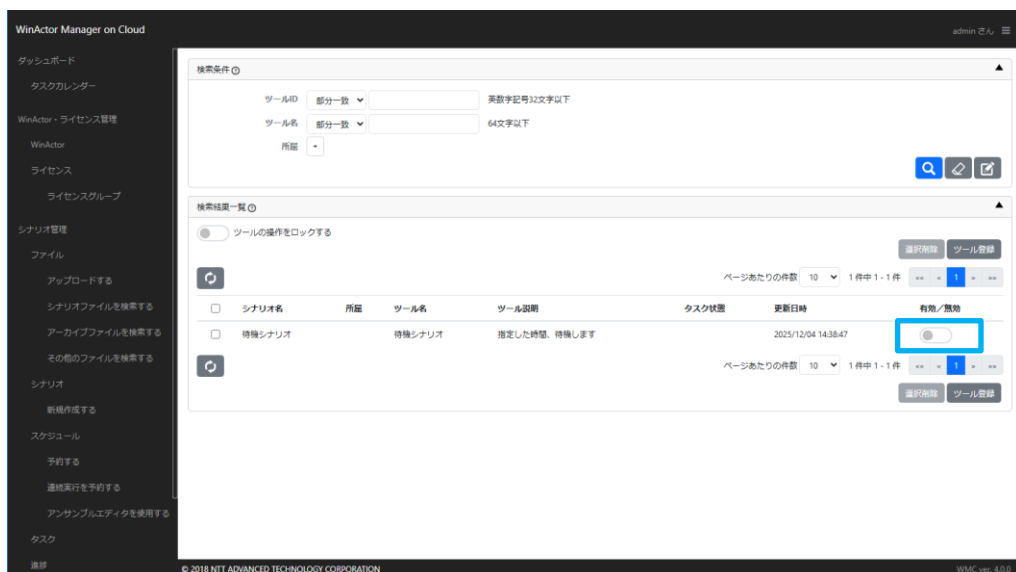
名前(シナリオ)	名前(ツール)	型	説明(ツール)
結果	result	文字列	200文字以下

名前(ツール)には、全角文字は入力できません。

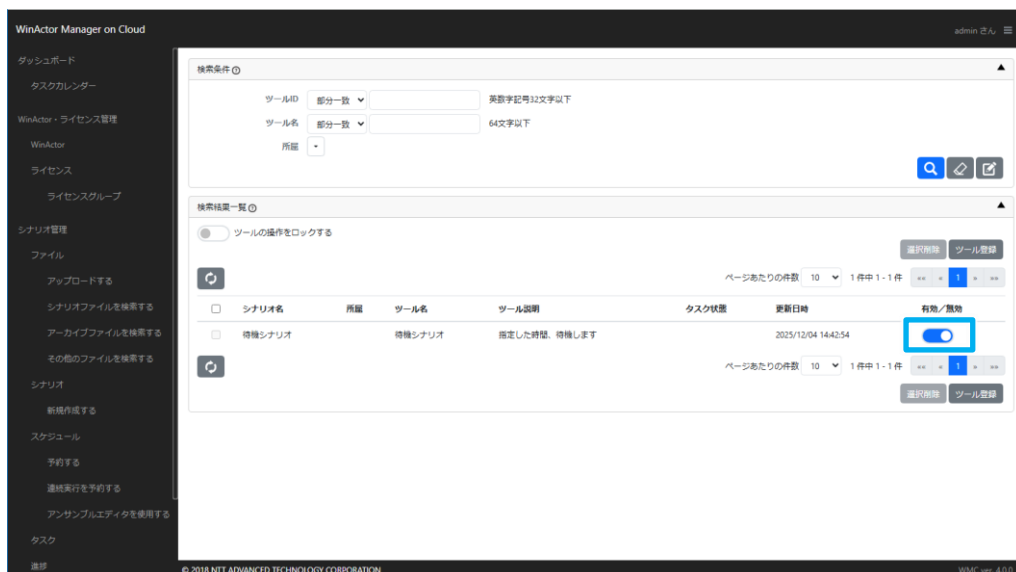
OK

© 2018 NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION WAMC ver. 4.0.0

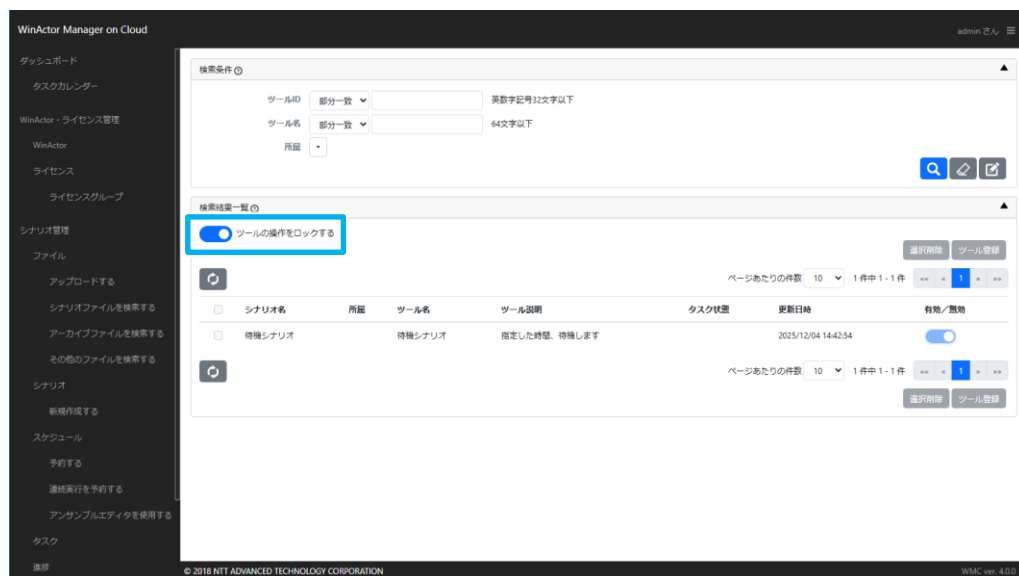
8. ツール登録だけでは MCP 経由で実行することは出来ません。[有効／無効] のスイッチをクリックします。



9. [有効／無効] のスイッチがこの状態になると MCP 経由でシナリオを実行できるようになります。



10. この状態では MCP ヘツール一覧を通知した後に登録したツールを削除する（無効状態とする）ことが可能です。そのため、誤ってツールを削除しないように、この画面での操作をロックすることができます。ロック中は新しいツールの登録、変更、削除、有効化、無効化が実施できなくなります。（この設定は任意です）



4. MCP ツール実行

この章では、API キーを発行し、MCP ツールを実行するまでを説明します。AI エージェントからの通信時に WinActor Manager が発行した API キーを付与することで WinActor Manager に対する正しい通信であると判断し、対象のシナリオを実行します。



この章で説明する画面の表示内容を確認するためには、管理者権限を持つユーザでログインする必要があります。



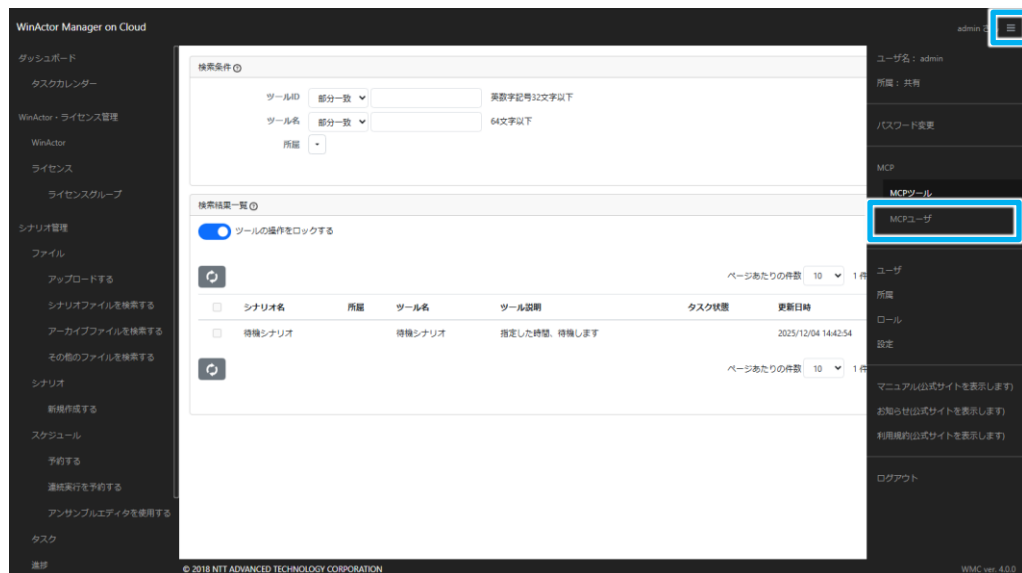
API キーを発行するために MCP ユーザを作成しますが、この MCP ユーザはどの AI エージェントからの接続かを識別するためのものであり、MCP ユーザを用いて WinActor Manager へログインすることはできません。

4.1 API キーを発行し、AI エージェントに設定する

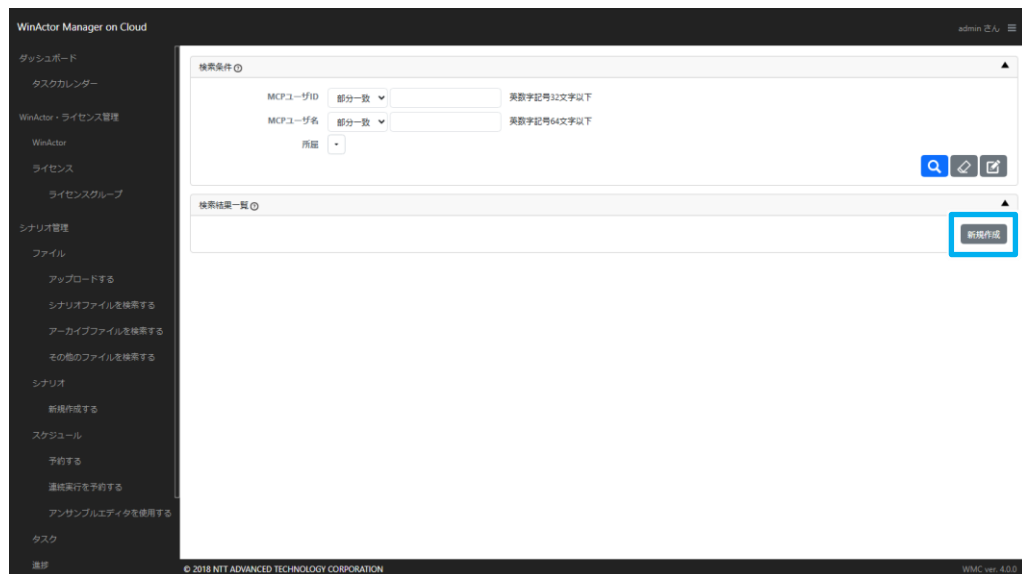
API キーを発行し、AI エージェントに設定する手順について説明します。

Steps

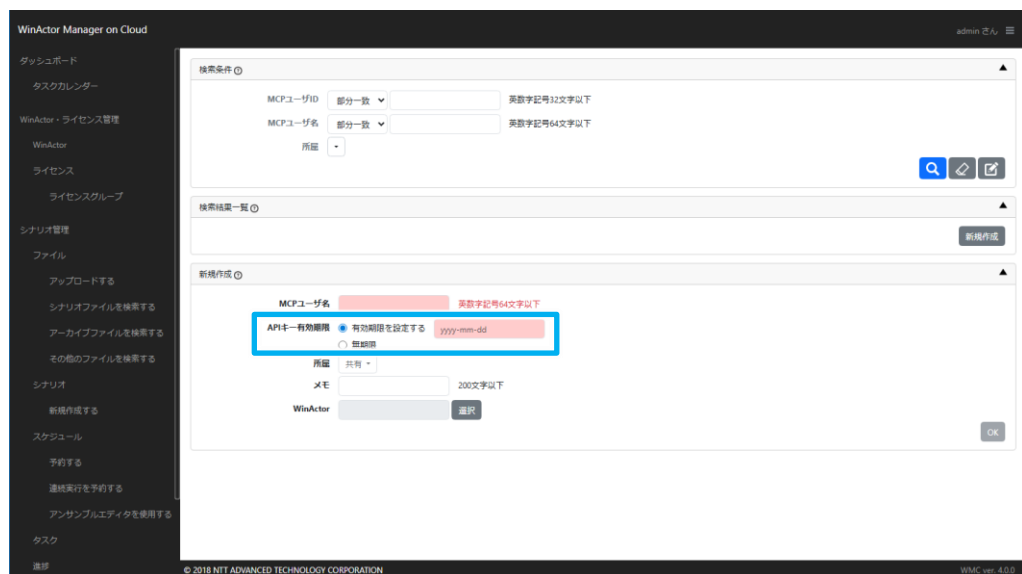
1. 右上の 3 本線ボタンをクリックすると右側にメニューが表示されます。その中の「MCP ユーザ」をクリックします。



2. MCP ユーザ画面が表示されたら、[新規作成] ボタンをクリックします。



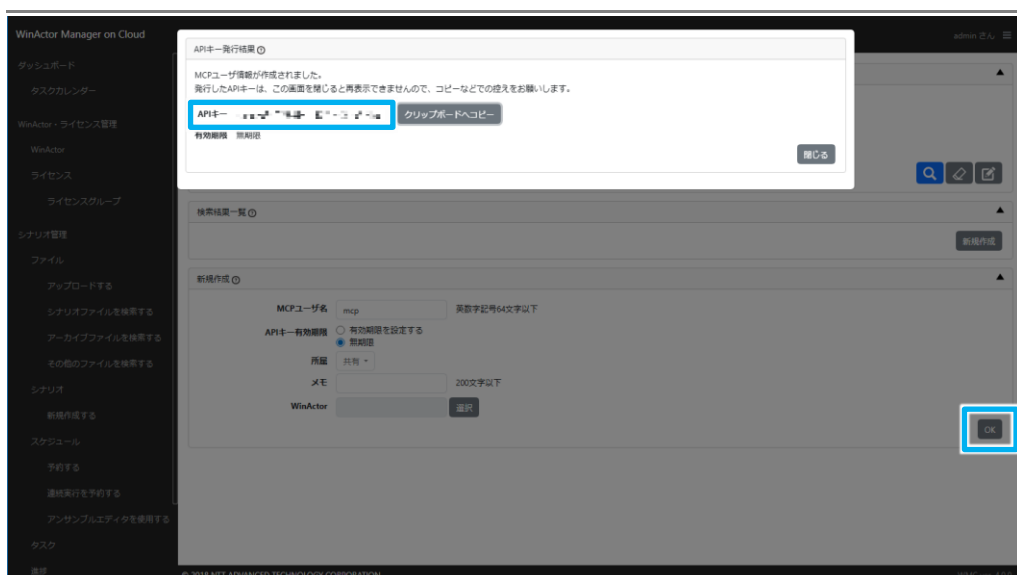
3. MCP ユーザ名と API キー有効期限を設定します。有効期限は無期限、もしくはカレンダーからの指定が可能です。有効期限が切れた API キーは使用できなくなりますので、本画面から再発行する必要があります。



4. [OK] ボタンをクリックすると MCP ユーザの作成と同時に API キーが発行されます。このダイアログを閉じると API キーを確認することができなくなりますので、ご注意ください。



発行した API キーが確認できるのはこの画面だけのため、必ず控えるようにしてください。



5. 発行した API キーを用いて AI エージェント側に設定してください。設定方法は AI エージェントのマニュアルを参照してください。

表 4.1-1 設定情報

種別	値	備考
サーバー名	winactor-manager-on-cloud	
通信方式	streamable-http	
エンドポイント	/wmc-mcp	
API キー	X-WmcApiKey	リクエストヘッダーに付与

AI エージェント設定例（API キーは別途設定してください）

```
{
  "mcpServers": {
    "winactor-manager-on-cloud": {
      "type": "streamable-http",
      "url": "https://xxx/yyy/wmc-mcp"
    }
  }
}
```

4.2 MCP ツールを実行する

MCP サーバーへ接続し、シナリオを実行する手順について説明します。ここでは例として MCP 公式サイトで提供されている MCP Inspector を使用します。実行時の MCP Inspector のバージョンにより画面が異なっている場合は公式サイトの情報等を参考に実行してください。



本節では MCP Inspector (Copyright © Model Context Protocol a Series of LF Projects, LLC.) (<https://modelcontextprotocol.io/docs/tools/inspector>) の画像を加工・改変したものを使用しています。

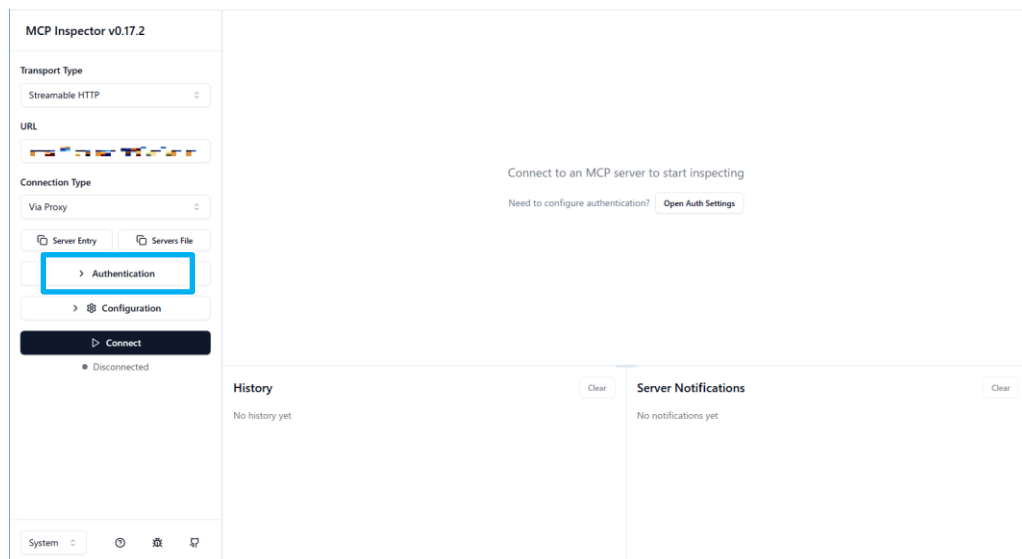
MCP Inspector は Apache License, Version 2.0

(<https://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>) の下でライセンスされています。

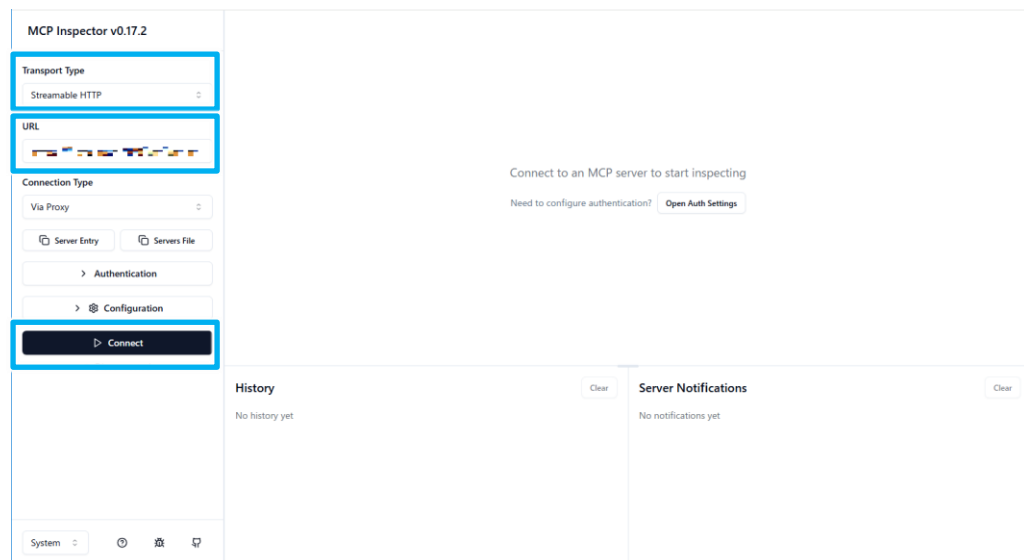
MCP Inspector を使用する際には MCP Inspector のライセンス条項をご確認ください。(<https://github.com/modelcontextprotocol/inspector>)

Steps

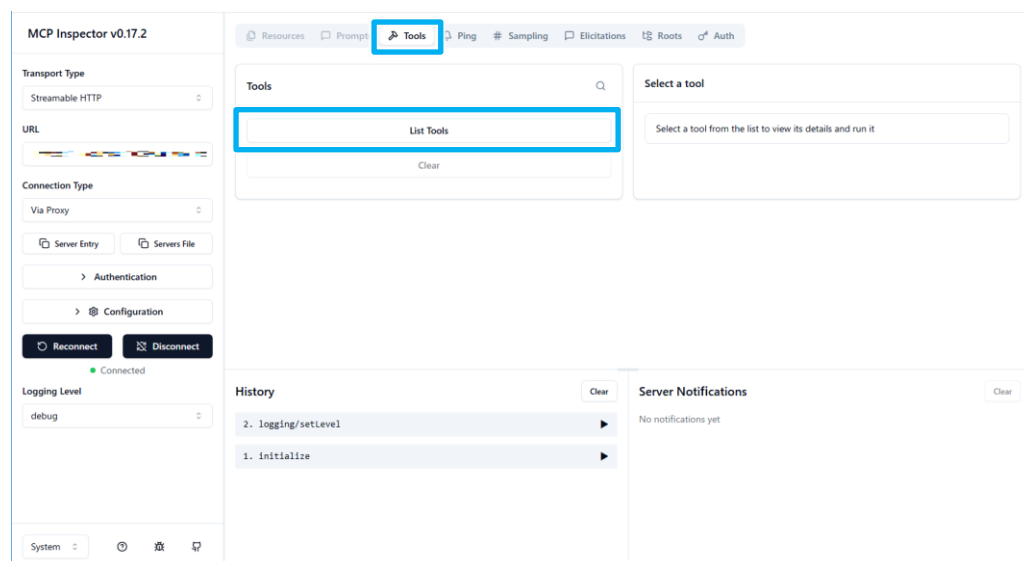
1. MCP Inspector を起動します。API キー送付のためのリクエストヘッダーは Authentication から設定します。



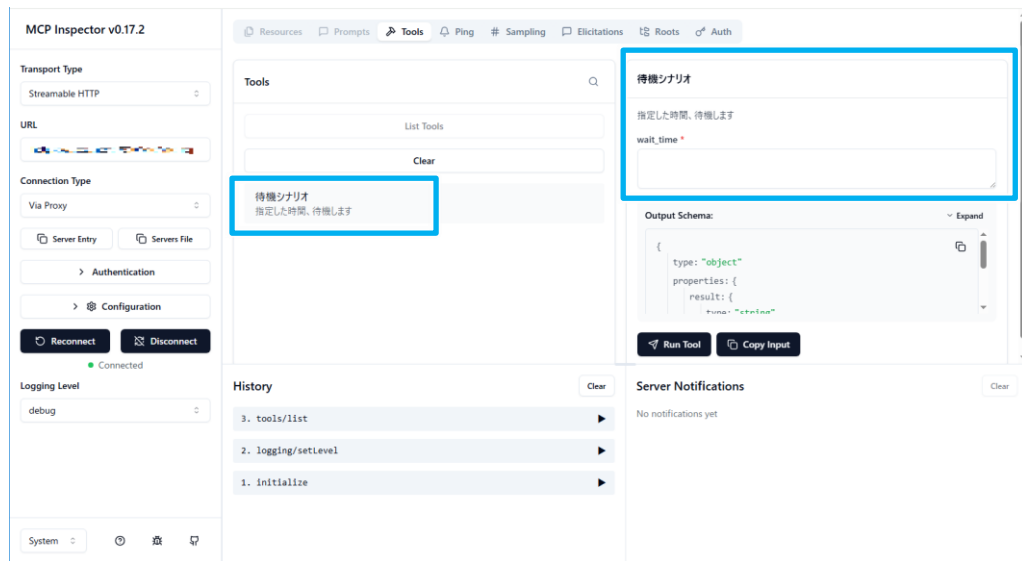
2. 「Transport Type」を「Streamable HTTP」、「URL」を WinActor Manager の MCP サーバーエンドポイントとし、[Connect] ボタンをクリックして接続します。



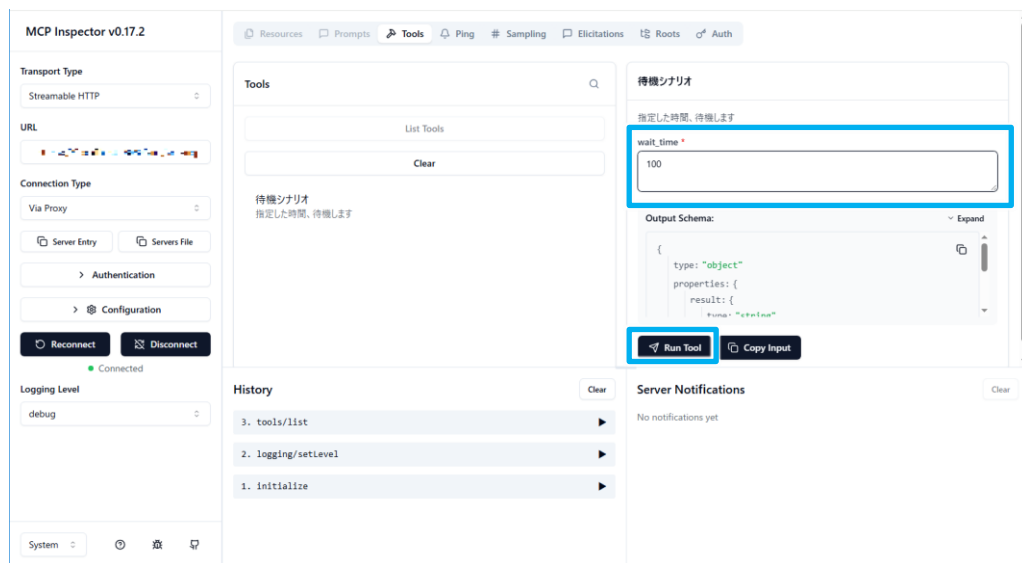
3. 「Tools」タブの [List Tools] ボタンをクリックし、実行可能なツール（シナリオ）の一覧を取得します。



4. 先程登録したツールを選択します。ツールを選択すると右側に説明と入力項目が表示されます。

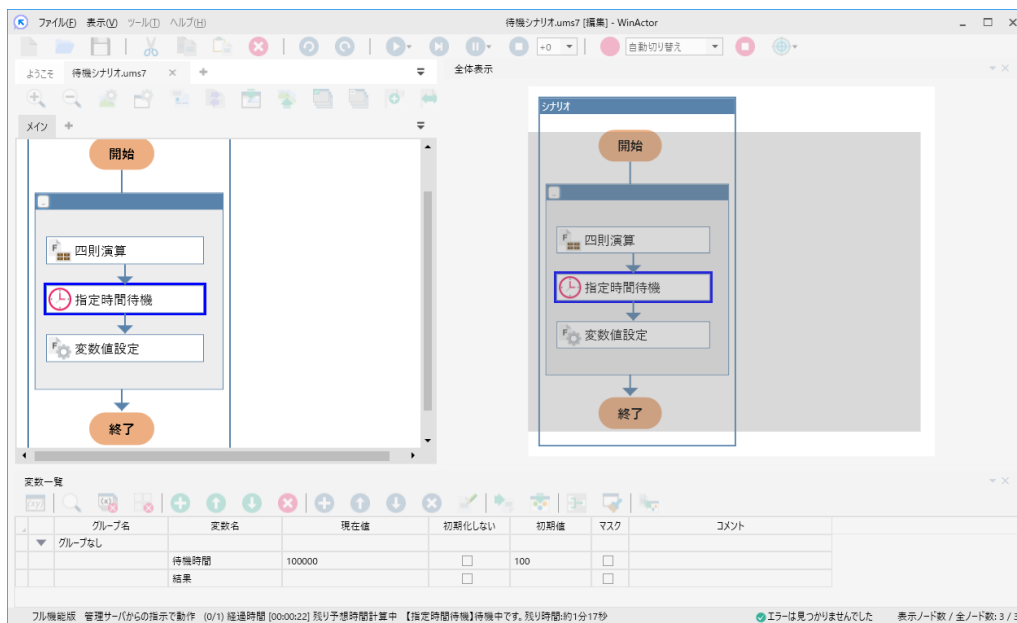


5. 入力パラメータに値を指定し、[Run Tool] ボタンをクリックします。



MCP ツールを登録する際に設定した入力パラメータの型がパスワード型の場合、パラメータの値に設定する文字数や文字種によっては、タスク生成時にエラーが発生する場合があります。特に数千文字程度の長文や多数の絵文字を設定した場合に発生しやすいため、これらの設定は避けてください。

6. ツール実行を開始すると、WinActor 上でシナリオ実行が始まります。



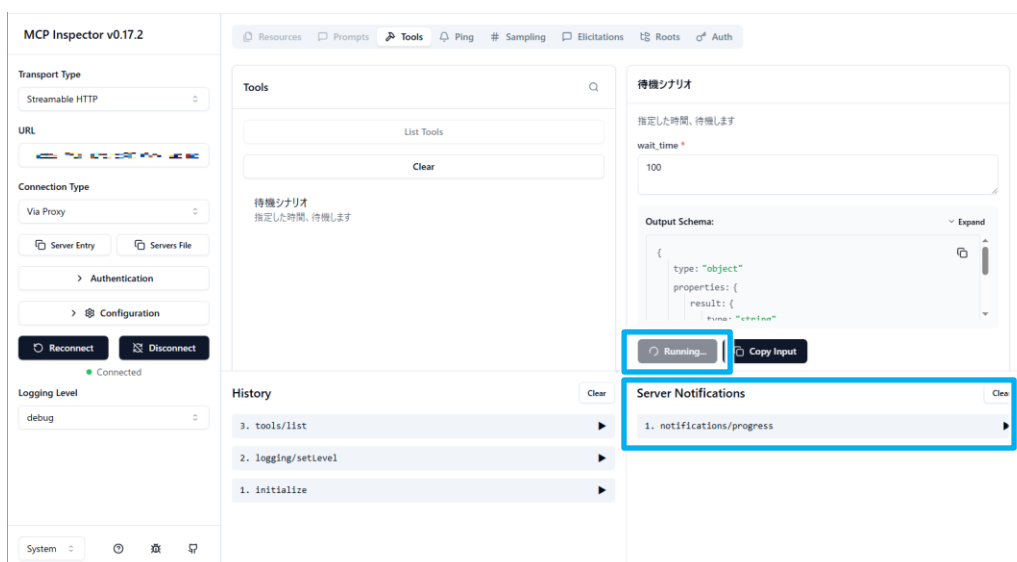
7. ツール実行時に progressToken を設定した場合は MCP サーバーから notifications/progress が通知されます。



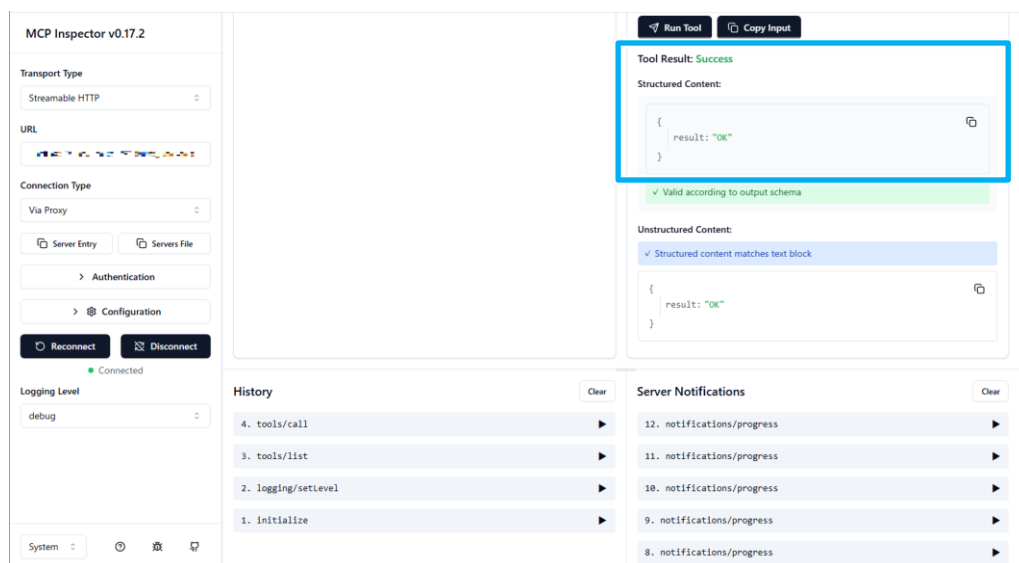
progressToken については以下を参照してください。



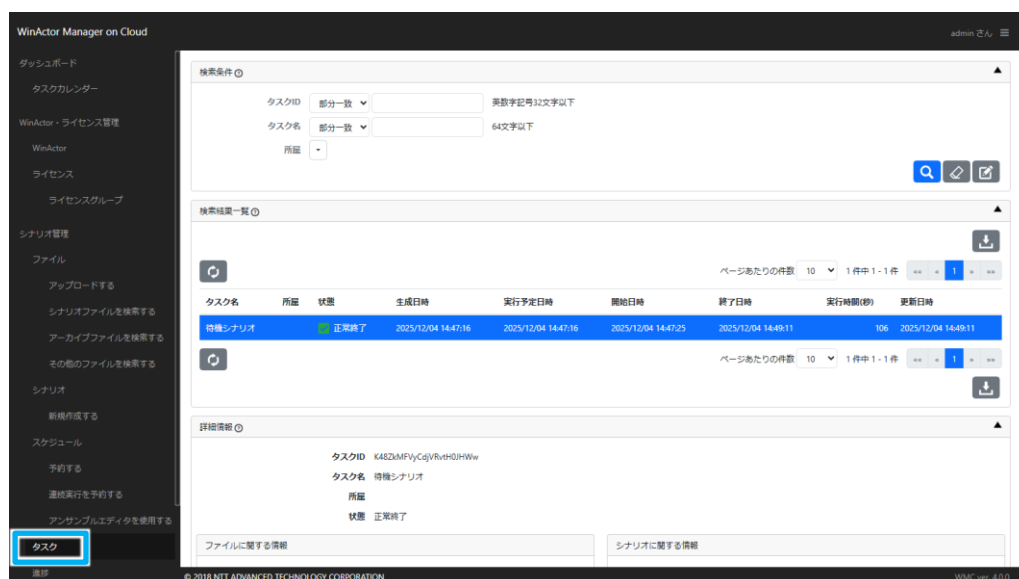
『5.4 レスポンス返却時のタイムアウトについて』



8. WinActor でのシナリオ実行が終了すると、結果「OK」が返却されます。



9. ツールを実行すると WinActor Manager は WinActor がシナリオを実行できるようにタスクを生成します。実行結果などの情報を確認する際はタスク画面を参照し、「タスク名」に実行したツール名を持つタスクを確認してください。また、MCP 関連の情報はイベント画面にも表示されますのであわせて確認してください。



5. MCP サーバー利用時の注意点

この章では、WinActor Manager の MCP サーバーを利用する際の注意すべき設定について説明します。

5.1 所属について

MCP サーバーに関わる WinActor、シナリオ等の所属はすべて「共有」所属である必要があります。

5.2 入出力パラメータについて

入出力パラメータに「ファイル」型のパラメータを持つシナリオは MCP サーバーで公開することはできません。「文字列」もしくは「パスワード」型のパラメータを使用してください。

5.3 ツールタイムアウトについて

MCP ツール登録時にツールタイムアウト時間を設定することができます。このツールタイムアウト時間は AI エージェントから MCP ツール実行依頼がきてから MCP サーバーが結果を返却するまでの許容時間となります。WinActor Manager では通常タスクが生成されてから WinActor がタスクを実行するまでに数秒から数十秒かかるため、実際にタスクとして実行できる時間はツールタイムアウト時間より短くなります。また、このツールタイムアウト時間はシナリオに設定するタイムアウト時間とは連動しません。そのため、ツールタイムアウト時間としては十分な時間を確保していても、シナリオ側のタイムアウトにより処理が中断してエラーが返却された、ということも考えられますのでツール、シナリオ両者のタイムアウトの設定にはご注意ください。

5.4 レスpons返却時のタイムアウトについて

MCP サーバー経由でツールを実行すると、シナリオの実行が終わってからレスポンスを返却します。そのためシナリオの長さによってはレスポンスが返るまでに数分程度必要になることがあります。この場合は前述のツール、シナリオのタイムアウト時間を長めに設定する必要があります。ただし、WinActor Manager は一定の条件でアクセスを制限する仕組みを備えており、その影響でタイムアウト時間を長めに設定した場合でもタイムアウトする可能性があります。

このタイムアウトを回避するためには AI エージェントから tools/call を実行する際にメタ情報として progressToken を設定するようにしてください。値は文字列または整数値を設定することができます。

progressToken 設定例

```
{
  "jsonrpc": "2.0",
  "id": 1,
  "method": "tools/call",
  "params": {
    "name": "getWait",
    "arguments": {
      "seconds": 10
    },
    "_meta": {
      "progressToken": "sample"
    }
  }
}
```

progressToken を設定した場合、WinActor Manager から定期的に進捗通知を送信します。
必要に応じて画面等の表示に使用してください。

表 5.4-1 進捗通知情報

値	説明
progressToken	リクエスト時に設定した進捗トークンの値です。
progress	進捗値（通知回数）です。total の値になる前にツール実行が終了することがあります。1.0 刻みで更新されます。
total	タイムアウトまでの最大通知回数です。
message	「ツール実行中です」を固定で設定します。

進捗通知例

```
{
  "jsonrpc": "2.0",
  "method": "notifications/progress",
  "params": {
    "progressToken": "sample",
    "progress": 50.0,
    "total": 100.0,
    "message": "ツール実行中です"
  }
}
```

5.5 WinActor について

MCP ツール実行時（タスク実行時）に使用する WinActor は以下の順で決定します。

1. API キーに紐づく MCP ユーザに設定された WinActor
2. MCP ツールに紐づくシナリオが持つ機能タグと同じ機能タグを持つ WinActor

API キーに紐づく MCP ユーザに設定された WinActor が起動していない、または別のタスク実行中など、すぐにタスクを実行できない場合は空いている別の WinActor を使用してタスクを実行します。そのため、ツールの実行に使用できる WinActor の台数が少ないと AI エージェントからツール実行を依頼されてもタスクを実行できず、ツールタイムアウトにより処理を中断してエラーを返却することになりますのでご注意ください。



WinActor
Manager on Cloud®

WinActor Manager

MCP サーバー

ユーザーマニュアル

NTT アドバンステクノロジー株式会社

© 2026 NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。

本マニュアルの内容は予告なく変更される場合があります。

WMC-MS-2026-0721
